

福井県高P連 会報

発行人 福井県高等学校PTA連合会
 (福井県生活学習館「ユニーアイふくい」内) 井上博之
 URL: <http://koupren-fukui.gr.jp/>



藤島、高志、武生3校の合同演奏(第46回全国高等学校総合文化祭東京大会 器楽・管弦楽部門 東京文化会館に於いて)

福井県高P連研究大会

令和四年度の県高P連研究大会が十一月十三日(日)の午後からアオッサ八階県民ホールで百八名が参加して開催されました。開会式では、初めに県高P連会長の井上博之氏が「今年も昨年に引き続きコロナ禍での活動となり制約もありましたが、徐々に活動範囲を広くすることができました。そんな一年でしたが、学校の持つ役割、家庭の持つ役割が改めて見直されていると感じています。学校は単に勉強を教える場ではなく、社会に出て必要となるコミュニケーション等の場を提供する、家庭では会話を増やし、子供と一緒に成長していけるように今後のPTA活動を考え、引き継いでいきたい。」と挨拶されました。



井上博之高P連会長

続いて、福井県教育委員会教育長の豊北欽一氏は祝辞の中で「保護者の方々が望むことは、子どもが希望する進学や就職を学校としてしっかりとサポートしてほしいということ、また、部活動や学校祭を通して友達を作り、楽しい学校生活を送ってほしいということだと思えます。皆様のこうした思いを実現するため、高校教育課と話し合い、目指すべき高校像として、



豊北欽一県教育長

いい高校十箇条にまとめました。教員の働き方改革については、令和元年十二月に、国は法律を改正し、教職員の時間外勤務の上限を月四十五時間以内とする指針を定め、各都道府県での条例や規則で規定されました。本県でも働き方改革を進め、教職員の勤務状況は改善されてきています。ただ、教員の志望者が減少している現状があり、(今後、より一層教職員の働きやすい環境をつくらないといけません)教職員の働き方改革につきましても、PTAの皆様の一層の御協力をお願いいたします。」と挨拶されました。

また、福井県高等学校長協会会長の松下晋也藤島高校校長は、「褒めることの重要性が言われているが、若者の中にはみんなの前で褒められることにプレッシャーを感じる人も多く、みんなの前で褒められるとハードルが上がります。褒めることの大切さは理解していますが、相手の性格や価値観等を考慮しながら褒めることが求められるので、褒めることの難しさや大切さを再確認しました。」と祝辞の中で話されていました。

開会式の後、第一部では、「学校では教えてくれない親から子へ贈る大切なメッセージ親子関係を深めるアンガール」



松下晋也校長協会長



講演会講師 三好眞季氏

マネジメント」と題して、アンガーマネジメントアドバイザー三好眞季氏よりご講演をいただきました。

「今、学校では「怒り」に特化した授業というものがありません。アメリカでは幼稚園の頃から教えられていきます。ここでは「怒り」とはどういうものなのかを学んで、家庭で話ができるようにして欲しい。アンガーマネジメントとは、「怒り」を我慢することではなく、怒る必要があることは上手に怒り、怒る必要のないことは怒らないようにすることです。怒ることには人間関係が悪くなる、その場の雰囲気が悪くなるなどのデメリットと対象となる人を導くなどのメリットがあります。私たちが怒らせるものの正体は何なのか、自分の理想や価値観（「こうあるべきだ」ということ）と現実ギャップが出来たときに発生します。「怒り」が発生するメカニズムは人によって異なります。「怒り」のメリットもある、叱るについての目的とそのポイント、相手の成長を願いたい行動をしてもらうための動機づけをする。若い人は叱るとすぐ仕事をやめてしまうといわれるが、中には正しく行動するために叱って欲しいという人も多い為、正しく叱るといふこと、指導するということを考えないといけない。叱るには相手を認めないといけない。また、相手を認めることは褒めることではない。うその褒めるは見透かされて

しまう。単純に結果を褒めるのではなく、やってきた工程を承認していく。相手のやったことを見ていないと承認することができない。また、相手の良いところに目を向けて素直に言葉として伝える、ポジティブフィードバックをした方がよい。それが相手を認めることになり勇気づけになる。

親子で実践！
簡単テクニック

- ① アンガールוג
↓ 怒りを記録する
- ② べき口グ
↓ 『○○べき』を洗い出す
- ③ ストレス口グ
↓ ストレスを書き出す

親子で実践する体質改善セラピーとして ①怒りを記録する、②「○○べき」を洗い出す、③ストレスを書き出す、ことにより、自分や子どもとの価値観や優先順位等が理解できるようになり叱ることができるようになる。」と氏は話されました。「怒り」や叱ることについて細かな内容について学ぶことができ大変ありがたい講演会でした。

実践発表

福井県立藤島高等学校PTA

「福井県立藤島高等学校PTA活動」

「保護者と学校の連携」

PTA会長の水島正芳さんに発表をしていただきました。



藤島高校は生徒数千人を超えるマンモス高校です。他校ではあまり見かけない施設・設備が整っております。なかでも「新嶺会館」と呼ばれる三階建ての施設の一階に学生食堂があることは非常に良いと私自身強く感じました。二階には左内ホールと呼ばれる自習室があり三階にはプラタナスホールがあります。

PTA講演会として、成人年齢が十八歳に引き下げられることによる「十八歳＝大人？」そのために、保護者・教員が意識すべきこと」と題した消費者教育・法教育の専門家とPTA役員によるクロストークが行われました。成人年齢が十八歳になることによる子供達への危険性など、そういった対談が行われ将来に役立てられると感じました。

また、校内諸施設充実のための支援として、特別教室の被服室や和室などのエアコンの更新や、校内に冷水器の設置をするなど、生徒たちが快適で安心な学校生活を送れるように、PTA活動を行っています。

子供達の将来の成長を願ってのPTA活動がとても印象に残りました。

福井県立敦賀工業高等学校PTA

「敦賀工業高校のPTA実践報告」

「コロナ禍での活動状況」

PTA会長の西島淳生さんに発表をしていただきました。



敦賀工業高校は、電子機械科・電気科・情報ケミカル科・建築システム科など、実力ある

優れた工業技術者を育成していく伝統のある学校です。電子機械科では、地域の子供達のおもちゃを修理する「おもちゃ病院」の活動。電気科では市内のイベントにて「ミニ電車」の活動。情報ケミカル科では、小学校への「出前授業」の活動。建築システム科では、小学生への工作教室として「木のおもちゃ作り」の活動など、各科において地域活動への活発な参加をしています。

PTAでは、交通安全街頭朝指導として健全育成部が交通事故の防止を目指し、生徒達に指導をしています。部活動に関しては、部活動激励として厚生部が、スポーツ飲料の差し入れをしています。

コロナ禍ならではのPTAの取り組みとして、生徒達の毎朝の登校時の検温の為の非接触型体温計の購入補助、嗅気の目安になるようにCO2測定器の製作補助、手の消毒を行う際の足踏み式消毒装置の製作補助を行いました。

その他、生徒会の要望に応じ、屋外にLEDライトの設置を行いました。屋外に照明設備が無く、部活帰りが暗い為、安全面の不安が解消されました。このように、子供達の為を第一に考えるPTA活動がとても印象に残りました。

(三国高校PTA会長 姉崎 健司)
(福井農林高校PTA会長 波賀野露乗)

キャリアガイダンス研修会

県高等学校PTA連合会主催のキャリアガイダンス研修会が令和四年九月十日(土)午後、福井県生活学習館(ユニー・アイふくい)多目的ホールにおいて開催されました。当日コロナ関係で欠席される方もいましたが、三年ぶりのリアル開催ということで、百名を超える参加がありました。

初めに県高P連の井上博之会長が、子供を「こうあるべきだ」と枠にはめてきてしまったところがあり、個性をつぶしてきたかもしれない。また、親も子離れしていかないといけないなど自身の体験談を交えて挨拶しました。

続いて「自分の将来は自分で決める」高校生と親との信頼関係についてと題して、糸井優子氏による講演が行われました。糸井氏は、独立行政法人で役員秘書として勤務後、三人の子育てのかたわら、さまざまな家事・育児事例を知る「暮らしのプロ」として、全国



井上博之の高P連会長



糸井優子氏

で家事や子育てに関する講演やワークショップを行っています。

まず糸井氏は、家庭内での「お手伝い」の大切さについて話されました。現在は、少子化に伴い、子供を過保護に育ててしまっている親が多いと言います。朝、子供を起こしている。「ハンカチ持った？」と聞くなどの行動をしている親は、要注意です。また、お手伝いや家事の経験も少なく、そのことにより自主性や自立性に欠ける子供に育ってしまうとのことでした。朝寝坊し遅刻する。忘れ物をして大変な思いをする。勇気をもってこういった失敗をさせることにより、起きるために目覚ましをかける、忘れ物をしないようにメモをするなど考えて行動する力が養われます。そして、お手伝いをする

ことにより、社会の最小単位である家庭で貢献していることを実感するとともに、人の役に立ち社会に貢献するといったことも自然と身に付いていく。さらにお手伝いは、親から子へ有難うと言う機会も与えてくれる素晴らしいものだと話されました。

次に「ありのままを認める」について話されました。皆さん一度、子どものいいところを書き出してみてくださいますと一分間時間を与えられました。いくつ書けたでしょうか？糸井氏の解説では、誰かと比較しているあまり書けない。その子だけを見て比較せずに書くのとたくさん書けると言われました。

テストの点数に文句を言ってしまったり、習いごとの出来を人と比べるなど「目をかけすぎている(過干渉)」。親は要注意です。誰かと比較するのではなく、結果がどうであれ、その子の成長や頑張りをほめてあげることにより、人は成長できると学びました。また、意見を出し合った時、子供(相手)が自分の考え方とは違っても、「君はそう思うんだね」と一旦は認めてあげることの重要性についても話されました。

まとめとして

- 一、ありのままの君が好きということ
- 二、「ほめる二〇%」「ありがとう八〇%」でいこう
- 三、親が手出ししている身のまわりのことを一つやめてみよう
- 四、家の仕事を子供の役割として一つ与えてみよう
- 五、子供の「したい」を応援する親になろう(〇〇しなさい↓どうしたい?)と締めくくられました。

子供にとって最初の人間関係を築く場である「家庭」で良い人間関係を築くことができれば、社会に出てからも良好な人間関係を築くことができるというところは理解していても、「そのために親は何をすべきか、できることは何か」が見えないままの日常を殆どの親は繰り返しています。糸井氏は、親子のコミュニケーションを重視し、その中で「自己肯定感を上げる」、「自立心を伸ばす」ことの大切さをお話しされました。実体験から発せられる言葉

は、時には重く、大変興味深い内容でした。講演後の質疑応答も盛り上がり、質問に対し糸井氏も笑顔で答えていたことが印象的でした。親は皆、子供の幸せを願っています。しかし、幸せを願っていることが、実は過保護・過干渉になり子供の自主性・自立性を阻害してしまっていると聞いた時には、ドキッとさせられました。今回の研修は、PTA役員だけが聞けたわけですが、ぜひ多くの保護者に聞いていただき、自分の将来は自分で決めることのできる子供に育成していただきたいと思いました。

(藤島高校PTA会長 水島正芳)



講演会場

全国高P連石川大会

「輝く未来への礎」 親から始める新時代の教育

八月二十五日(木)、二十六日(金)に第七十一回全国高等学校PTA連合会大会石川大会が、「いしかわ総合スポーツセンター」及び「石川県産業展示館四号館」に全国から約五千人、福井県からも百二十四名が参加し盛大に開催されました。

参加者が一堂に会する全国大会としては三年ぶりでした。また、新型コロナウイルス第七波が収束しない中、感染防止を最優先に会場収容率五〇%、検温、消



毒の徹底などの対策を施し、開会式、記念講演、閉会式を全国にライブ配信するなど、全国大会としては初めてのハイブリッド開催となり、新時代の全国大会を実施したという意味で、価値のある大会でした。オンラインの環境が整えられており、各地に居ながら参加できることで、多くの会員が視

聴されていたようです。

今大会は、昨今のインターネットやIOTといった技術革新による産業構造の変化、また少子高齢化や核家族化による社会構造の変化に子ども達の教育はどう対応していくべきかを親として真剣に考えるため「輝く未来への礎」親から始める新時代の教育をテーマに開催されました。

開会式では表彰式がありました。本県からは若狭東高等学校PTAが優良PTA文部科学大臣表彰、全国高等学校PTA連合会会長表彰個人の部に三名、団体の部で二校が表彰されました。



おめでとうございませう

優良PTA文部科学大臣表彰

福井県立若狭東高等学校

全国大会会長表彰

個人

小林 一朗 前高P連会長

向富 淳 前高P連副会長

重田勝正 前高P連副会長

団体

丸岡高等学校PTA

武生高等学校PTA

き、その後のパネルディスカッションでは白熱した討論会となり、これからの教育の在り方をそれぞれの立場から私たちにもわかりやすく説明していただきました。

二日目は(株)ファミリーマート顧問(前副会長・元社長) 澤田貴司氏が「やりたいことをやる」と題して記念講演をされました。伊藤忠入社、コンサル会社起業、ユニクロ、ファミリーマートまでの紆余曲折の人生から学んだことを熱く語りかけ、ユーモアを交えた飾らない口調と興味深い内容に参加者は引き込まれました。特に、長く教職に携わってこられたお父様が不慮の事故で亡くなられたときに、多くの方から感謝の言葉をいただき、「自分も一人でも多くの人を物心両面で幸せにしたい、自分のため(利己)ではなく、人のため(利他)に尽くそう。」と決心された点が印象に残っています。「人のためになっっているか」という利他の心は新時代を生き抜く上での最善のツールかもしれないと考えさせられました。



その後の閉会式では、「豊かな杜にむぐ虹の光くしなやかな強さで生き抜く力」をテーマに掲げる、次期開催地である宮城県での再会を誓い閉幕しました。

(武生東高校PTA会長 田口聖)

ちよつと おぼしやましくす!

Introduction

奥越明成高等学校

コロナ禍のため、ちよつとおじやませず、奥越明成高校の村中総子会長の協力を得て作成しました。

奥越明成高校は、平成二十三年に大野東高校と勝山南高校が統合し、県内初の総合産業高校として開校しました。令和二年には、創立十周年を迎えています。現在、生徒数は三百名、機械科、電気科、ビジネス情報科、生活福祉科生活コース・生活福祉科福祉コースの四学科五クラスで構成されています。地域社会で活躍できるよう、各科・コースの特徴に応じて、多くの資格取得に努めています。また、地元商店街のイベントへの参加や施設訪問等、地域の活動に積極的に参加し、郷土愛や自己有用感を育てることに力を入れています。



本校PTAは、役員十二名と各クラス二名の評議員からなる計四十二名が「補導部」、「総務部」、「研修部」の三つの部会にわかれて活動しています。「補導部」は、「交通マナーアップ安全指導」として通学時の安全とマナー向上のための指導を春と秋の交通安全週間に学校付近の交差点で行います。「総務部」は、年に何回かの総務部会を開き、PTA会誌「明成」の編集・発行・構成を協議します。「研修部」は大野

市青少年健全育成推進大会や高P連キャリアガイダンス等の各種研修会に参加します。

コロナ禍で活動が制限されてきましたが、今年は少し状況がよくなってきたこともあり、三年ぶりに皆が集まったPTA総会などの活動を行うことができました。今年度は、学校祭への保護者の参加制限も緩和され、例年行ってきたPTA模擬店を九月の体育祭で行いました。三年ぶりということもあり、やり方を知り保護者がいない中、感染対策にも十分気を付けながら、皆で協力し、数百本の焼き鳥とフランクフルト、ジュースを販売しました。それを買いに来る生徒達とのふれあいはとても楽しい時間でしたし、何より子ども達が学校祭で活躍する姿をこの目で見ることで、充実した一日となりました。

参加した保護者の皆様からは、「今日の模擬店は、すごく楽しかった。来年もぜひ、模擬店を開催してほしい。」という声があり、大成功の一日になったと思います。



（敦賀気比高校父母と教師の会 会長 田辺寛之）

Introduction

足羽高等学校

新型コロナウイルス感染症感染拡大注意報の発令中ではありましたが、感染対策を行って、「ちよつとおじやましくす」の取材のために足羽高校に伺いました。

同校は、昭和五十一年に開校した比較的新しい学校で、毎年、アメリカやオーストラリア、中国など国外から多くの生徒が来校する国際交流が盛んな学校です。また、生徒たちの将来の自己実現を支援するために先生方が熱心に教育活動を行っている学校でもあります。

令和四年度からは、普通科キャリアデザインコース、多文化共生科中国語・英語コースおよび日本語コースを新設しました。普通科キャリアデザインコースでは、スポーツ・キャリア探求・進学の三つの専攻に分かれて、社会と自己を関連付けて、自分の将来をデザインし、実現していくことを目的とし、幅広い知識や思考力、表現力の向上を図り、自ら学ぶ力を身に付けていきます。多文化共生科では、多様性の理解と言語能力の習得を目的とし、中国語・英語・日本語を学びながら、多文化共生社会のリーダーとしての資質も養っていきます。

PTAは会長、副会長、会計、監査、顧問、幹事、学級委員の四十二名からなり、会長・監査以外の役員は各委員会に所属して活動をされています。昨年度まで四つあった委員会は、本年度から総務委員会、進路対策委員会、調査広報委員会の三委員会に再編されました。

総務委員会では九月の体育祭で「PETボトル飲料配付」として、生徒にスポーツドリンクや麦茶を配付しました。



コロナ禍以前は学校祭に保護者が集まっておにぎりを作っていたのですが、一昨年から変更したそうです。十月には、保護者・教職員合わせて四十五名が参加して、学校周辺の環境整備活動（除草作業）を行いました。鎌や刈払機を手に、通学路周辺やグラウンドの除草作業に汗を流しました。「生徒たちに気持ちよく学校生活を送って欲しい」という思いで開催されているそうです。



進路対策委員会では九月に三年生就職希望者対象に「模擬面接」を行いました。福井葵ライオンズクラブ会長を始め十一名の会員のご協力の下、PTA役員も面接官となって、本番さながらの模擬面接が実施されました。面接後の講評では、生徒達は採用する企業側からのお話を熱心に聞き、本番へ向けての意識を高めていました。保護者の方も、生徒達への手助けができたことに喜びを感じていたとのことでした。

調査広報委員会では、PTA広報誌「ASUWA」を七月、十二月の年二回発行しています。最後に学校、保護者、生徒の絆を深め、これからの福井県を担う人材育成に向け協力し邁進されますことを願っています。（敦賀工業高校PTA会長 西島淳生）

県教育長と高P連役員との懇談会

県教育長と高P連役員との懇談会が十月二十日(木)に県庁教育委員会室にて開かれました。県教育委員会からは、豊北欽一教育長、中森一郎学校教育監、村崎明子副部長(教育政策)、山崎良成副部長(高校教育)、竹澤宏保教職員課長の五名、県高等学校PTA連合会からは井上博之会長以下九名の役員が参加しました。



高P連役員

最初に井上会長

から「本年度は、コロナ禍を受けて、保護者・子ども・学校との間にできつつある「溝」を埋めるような取り組みを行っていただきます。本日は、意見

交換を通して意思の疎通を図り、お互いの課題や今後の方向性について共通理解が深まる有意義な時間になりたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。」と挨拶がありました。

続いて豊北教育長から、高P連の活動への感謝に続き、「PTA広報紙を読ませていただき、各校独自の取り組み、関わり方を知り、改めて学校の支えとなって活動していただいていることに感謝申し上げます。私も、少しでも学校を良くしてほしいとの想いで、「いい

高校十箇条」(後述参照)をまとめました。PTA、同窓会などの力を学校としても活用し魅



豊北教育長

力ある学校づくりに活かしてほしいと思っております。本日は、意見を交換し、対応できることを考えていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。」と挨拶がありました。

この後、主に四つの話題について意見交換がありました。

福井県の教育全般について

井上会長から、「県教委の、子どもたちの教育に対しての多方面からの取り組みを知り、改めて感謝申し上げます。共有し理解を深めたい事もあると思っておりますので、取り組む中で、課題や難しさ、うまくいっていないことがありましたら共有させていただきたいです。知ることでもPTAとしても考えることができます。」と話題提供がありました。

豊北教育長からは、「大きな変化は、『探究』という学びが入ってきたことです。高校時代に取り組んだ課題、失敗例、その克服の仕方、得たことを説明する力が今後ますます重視されるようになります。現在、その変化に対応できるように取り組むこととして、生徒が目的に応じた取り組みをできるように、できるだけ時間を生徒に返すようにしています。教員が教え込むのではなく、生徒が主体となって取り組むことで学校に対して様々な意見が出るように変わってきた学校もあります。また、学祭などの行事にも生徒が主体的に取り組む姿勢、力が身につけてきたように感じられます。」と話されました。

次に、中森教育監から、「生徒を支援

するうえで必要なことは、教員が生徒と丁寧に対話し、課題や悩みを受け止め一緒に伴走する、支援とは伴走であり、教え込みからの脱却と伴走することとがこれからの教員に求められていると思います。」と話がありました。

佐々木貴幸副会長の、「学校が変わるきっかけは何か」、「全県的な広がりはどうか」という質問に対しては、中森教育監が、「偏差値等で判断するのではなく、生徒の希望進路に寄り添い、ともに解決策を探るための関係づくり、体制づくりが保護者との信頼関係も含め効果的ではないかと思っております。」と説明されました。豊北教育長は、「基本的

に自分がやる、教師は伴走するという姿勢は徐々に広がり定着していくと思っております。職業系においても、産業界から「金の卵」と言われ期待されています。そこで、全県的に一斉に多くの企業の講義を聞く時間を設けたら、生徒は主体的になり、質問が行き交う時間となってきました。英語教育も含め大きく変わってきています。」と説明されました。

教育環境の整備状況について

佐々木副会長から、「特に空調関係について、普通教室はほぼ終えたことに感謝申し上げます。ただ、準備室などの特別教室や教職員常駐の部屋について、設置時期に差があったり、年度途中に急遽頼まれてPTAが対応せざるを得ない学校もあれば県費で設置された学校もあるという現状があります。

どこまでPTAが関わればよいか、設置計画があるのか、プロジェクト型母校応援についてと併せて教えていただきたいです。」と話題提供がありました。

村崎副部長から、「普通教室の次に優先される部屋は学校ごとに状況が違います。修繕を優先したい学校もあります。学校と協議をしながら進めてまいりましたが、再度検討させていただきます。一度に対応することはできませんが県費を基本としてPTAや民間の力をお借りしながら進めていきたいと思っております。」と説明がありました。

田中きよみ副会長からも「プロジェクト型母校応援」の進め方について質問があり、山崎副部長から「部活動の備品購入なども、校長先生と相談し、定住交流課と調整していただければと思います。令和四年度前期は六校が活用し成果を上げています。」と話されました。

空調設備に関して、佐々木副会長、水島正芳理事、井上会長から「県費とPTA会計の負担の仕方」、「急な要請への対応」、「設置の判断基準」、「設置可否も含めた確認方法」等の質問があり、村崎副部長から「基本的には県費ですが、優先順位があります。早めに対応調査を行い検討していきたいと思っております。」と回答がありました。「県主導に移行」、「リノベーション」の関連、「各校の状況に応じて」などの回答があり、「PTA総会で説明できるように」、「判断基準を明確に」、「設置時期を伝えてほしい」ということを要望しました。

ICT教育 探究活動について

久我泰文副会長が、「ICT教育に

よって子どもたちが身に付ける力や、今後の具体的展望、方向性についてお伺いします。」と話題提供がありました。豊北教育長が、「授業参観があったら是非ご参加を。授業形態も変化しています。いろんなアプリがあり、タブレットを使いこなしています。県としても教育DX計画を進めていて、会議や連絡への活用、保護者面談のオンライン化などを図ろうとしています。また、教員の多忙化解消の面からも、採点アプリや分かりやすい授業例の共有なども導入を始めています。」と話され、村崎副部長は、「生徒の創造性や主体的な学びの向上にタブレットなどは必要不可欠であり、生徒が取り組み、先生方が伴走していく形で進めていきたい。」、山崎副部長も「校長のリーダーシップだけでなく、生徒の姿勢や要望で、学校が変わり、教職員も意識改革が進められるようにしていきたい。」と話されました。その他、「ICT支援員の配置」、「探究的な学びに最適」、「授業わかる度調査への活用」、「ベストティーチャー投票」などの説明もありました。

教員の働き方改革について

田中副会長から、「保護者から見ても先生方は忙しそう、『先生になって良かった』と先生方が思えるような改革、改善をしていただきたいです。それが子どもたちの楽しい学校生活に繋がっていくと思います。現状と今後について伺います。」と話題提供がありました。竹澤教職員課長からは、「時間外労働について、月八十時間以上をゼロにする取り組みを継続的に進めています。実現のために、教職員の意識改革や、



右から、山崎副部長・中森教育監・豊北教育長・村崎副部長・竹澤教職員課長

ICT機器の活用、外部人材の活用による負担軽減を図っています。」との回答がありました。田口聖理事から「少子化に伴う部活動数の減少への対応」、河原康徹理事からは「学校の魅力化、特色化の柱である部活動への配慮」が意見として出され、県教委からは、「魅力ある部活動は大事」、「地域クラブへの移行」などの説明がありました。その後、四つの話題も含む色々な課題や問題について、意見交換があり、水島理事が、「PTAは必要か、何をすべきか。」と話され、中森教育監が「管理職と意見交換し、スクールポリシーに保護者の意見や要望を加えるなど、学校づくりに参画していただける」とありがたいです。」、山崎副部長は「『地域も含めた多くの関係者が一緒に学校づくり』という考え方が周知されてきました。応援団以上の存在としてご協力をお願いしたいと思います。」と話されました。松下陽一理事は「コロナ禍前は学校に出入りできましたが、近ごろは全くできないようになってきました。」と話されると、豊北教育長は、「もつとPTAと話をするように校長会で話します。」と言っていたが、

た。宇佐美嘉一監事からの「保護者の思いを学校側に伝えることはPTAの大事な部分だと思えます。校内外のいろんな話がある、また、意見をPTAに求めるような体制づくりもお願いしたいです。」

と話されました。最後に佐々木副会長から、謝辞、挨拶があり、閉会しました。

『いい高校十箇条』

- 一 生徒一人ひとりが、自分の目標を持ち、課題にとことん向き合って、自ら学びを楽しむ。
- 二 学校の教育活動に主体的に取り組み、仲間と協働しながら、いきいきとした学校生活を送る。
- 三 生徒を一人の人間として尊重し、生徒の学びを支援するファシリテーターとして、自ら学び続ける生徒を育てる。
- 四 生徒の考えや目標を共有し、教科の専門性とプロ意識を持って、効率のよい深い学びに導き、教員自身も成長する。
- 五 生徒や保護者の思いに寄り添いながら、生徒や保護者の抱えている課題にチームとして向き合う体制ができている。
- 六 スクールポリシーを踏まえた明確なビジョンを持ち、教員と共有してリーダーシップを発揮するとともに、誠実な人格、豊かな人間力を備えている。
- 七 学校で行われている教育活動全体を把握し、適切なサポートを行い、生徒・教職員が安心、安全、健康に過ごせる学校づくりを行う。

- 八 地域との連携を大切にし、地元市町や企業とともに、ふるさとを誇りに思い、地域に貢献しようとする生徒を育てる。
- 九 生徒の将来に対する様々なサポートができるように、卒業生や後援会などのつながりを大切にする。
- 十 学校活動の様子を積極的に発信し、生徒や保護者から選ばれる学校、地域や広く県民から応援される学校を目指す。

インフオメーション

北信越地区高P連会長表彰

- 県高P連副会長 栗原 泰道
 - 県高P連理事 森岡 繁洋
 - 県高P連理事 伊東 尋志
 - 県高P連理事 加藤 喜秋
 - 県高P連理事 塚本 昭雄
 - 県高P連監事 東 真一
 - 県高P連監事 先織 大悟
- (敬称略、役職は令和三年度)

今後の行事予定

◆第三回理事会

日時 一月二十一日(土) 午前十時半～

◆各校PTA会長・担当者合同会議

日時 一月二十一日(土) 午後一時半～

場所 午前、午後とも生活学習館

高校生総合保障制度 事故受付状況と保険金請求手続きについて

二〇二二年も終わりに近づき、高校生総合保障制度につきましても、数多くのご請求やお問い合わせが保護者の皆さまから当事務局へ寄せられております。今回は昨年度の事故受付状況と保険金請求手続きについてご案内いたします。

一、事故受付状況について

二〇二二年四月～二〇二二年三月までの直近一年間の事故受付状況ですが、事故累計で四十七件お支払い致しました。内訳として、支払件数が多いのが通院補償一九五件、傷害医療費用補償のお支払いが二七件となっております。事故の内容で、最も多いのは、例年スポーツ中の事故となっており、次いで自転車運転中の事故となっております。

この保障制度では全プラン、学校から貸与されたタブレットの破損による法律上の損害賠償責任も補償対象となっておりますが、具体例として、今年度自転車通学中の転倒によりタブレットを破損され保険金をお支払いしたケースなどがあります。

最後に、福井県では今年七月一日から自転車条例が施行されております。**福井県高校生総合保障制度は全プラン自転車条例に対応しております。**ですので当制度の加入をご検討頂ければ幸いです。

二、保険金の請求手続きについて ケガ・病気・賠償事故の場合

下記連絡先(0120-3300399(通話料無料)：二四時間受付)まで、お手元に入会者証をご用意の上、ご連絡ください。

必要書類等につきましても案内いたします。

○中途加入に関するお問合せ先
高校生総合保障制度事務局
株式会社アイル保険センター

〒910-0003

福井県福井市松本4丁目6番15号

TEL:0776-12313419

(受付時間：9時～18時 土、日、祝日、年末年始除く)

保護者の皆様へ 2022年度版

福井県高等学校PTA連合会

適用される割引率※

15% 割引

高校生総合保障制度

ご案内 [こども総合保険+自転車総合保険]

学校の
休みの日でも

大切なお子さまを補償期間(保険期間)中、1日24時間補償します

ただし、一部の補償は24時間補償ではありません。

- 全プラン、学校より貸与されたタブレットの破損も補償されます。
- 全プラン福井県自転車条例に対応しております。



自転車事故等による損害賠償責任も

最高3億円まで補償

示談交渉サービス*付き!

*示談交渉を行う場合は、被保険者および被害者の同意が必要です。国内のみのサービスとなります。

小学5年男子児童の自転車衝突で母親に
約9,520万円の賠償命令(神戸地裁判決)

扶養者の方が事故で万一の際に 育英費用を補償

高校3年間と大学等の合計で、
約943万円の教育費がかかります!

出典:株式会社日本政策金融公庫「教育費負担の実態調査結果」(令和3年度)

簡単支払特急便

スピード対応 お電話一本で手続き完了

ケガによる入院・通院、病気による入院・手術で
10万円以下のご請求は、電話による事故報告のみで
保険金をお支払いします。

プランによって補償項目が異なる場合がありますので、詳しくはパンフレットのプラン表をご確認ください。

※割引率について:パンフレットで案内している保険商品の算出基準である保険料(加入者数20名未満の団体における保険料)に対しての割合を示します。適用される割引率は前年度の加入者数等に応じて決定します。

引受保険会社: AIG損害保険株式会社